

わなぐら 和名倉百年の森

2001.3.31
会報創刊号
百年の森づくりの会



会報「和名倉百年の森」の創刊にあたって 会長 内藤勝久

埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会が創部40周年の記念事業として始めた「百年の森づくり」が、昨年6月にOB会活動から分離独立し、「百年の森づくりの会」として発足いたしました。ここに植林を核とした学術、環境教育、地球温暖化防止、地域の活性化などを包含する総合プロジェクトが正式にスタートすることになりました。

兵藤埼玉大学長(名誉会長)をはじめ埼玉大学教官、行政、マスコミ、経済学部同窓会、埼大通り商店会、民間企業の代表者の方々に理事をお引き受けいただき、ワンゲルの強力な支援のもと百年に耐えうる推進母体が整いました。以来毎月会合を開き基盤づくりに取り組み、このほど会の発展に欠くことの出来ない広報誌を創刊する運びとなりました。

和名倉の名は荒川の源流域にどっかと鎮座する標高2036mの和名倉山からいただきました。わなぐらという古い響きが昼なお暗い秩父の原生林を思い起こさせてくれます。活動の輪がどのように大きな

ろうとも、またいつの時代になってもこの山はじっと私達の活動を見守ってくれることでしょう。

私達は4年前に「水を育む山への恩返し」の一環として、県や大滝村のご協力のもと山火事で焼失した和名倉山の南東斜面の跡地に広葉落葉樹を植え、緑のダムを建設するボランティア活動を開始しました。名づけて「百年の森づくり」。スズタケを切り開いて作業道を作ること3年、ようやく頂上までのルートが昨年10月貫通しましたので、21世紀最初の今年中に第1回の植林を行う計画です。

この活動はまだ源頭の一滴に過ぎませんが、そこに込められた私達の夢が若者たちに引き継がれ、いずれは多くの人々の共感を呼んで、疲弊した自然を蘇生する大きな力になるものと確信しています。そうならばレイチェル・カーソンが『沈黙の春』の巻頭に引用した「現実に先んずるすべを忘れた人間。そのゆきつく先は、自然の破壊だ。」というシュバイツァーの警告も杞憂に過ぎなかったことになるのです。

100年後の森に夢を託した「和名倉百年の森」の一滴が大河となって海に注ぐことが出来ますよう皆様の温かいご支援を心よりお願い申し上げます。



「和名倉百年の森」創刊によせて

「百年の森づくりの会」の会報発刊、おめでとう
埼玉大学 学長 兵藤 剣

「百年の森づくり」の事業は、1997年、埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会の発声によって始まりました。埼玉県を流れる荒川の源流域である和名倉山が1964年山火事で700ヘクタールも焼け、焼け跡が笹山と化しました。学生時代以来秩父の山に親しんできたワンダーフォーゲル部の山男達は、百年かかっても自分たちの手で豊かな森林を取り戻し荒川の清流を守ろうという思いに燃えて、創部40周年を機に植栽を発起しました。

埼玉大学は、一昨年、「百年の森づくり」を開学50周年の記念事業に組み込みました。それは、学生や教職員のなかからこの事業を支えるボランティアをつくりだしたいという思いからであります。「百年の森づくり」は、自然と人間の共生が時代のテーマとして浮上している21世紀にふさわしい事業であります。会報の刊行を機にボランティアの輪が広がっていくことを期待しています。

「和名倉百年の森」創刊を祝す
大滝村長 千島 茂

わが村の中央に、その山容を大きく誇る、白石山2036mを、村の人々は古来より和名倉と呼び親しみ、かつては稜山（かせぎやま）として生活をも支えてくれた宝の山です。その麓、秩父湖畔には埼玉大山の家が在り、埼玉大学とOBの皆さんによって、この山に「百年の森づくり」をすすめていただいている事に深く感謝いたします。

この度「和名倉百年の森」創刊に当り心からお祝い申し上げます。今後この機関誌を通じて、森づくり人づくり、山村と都会との交流の場として、この豊かな大自然を皆さんと共有してゆく一助たらん事を望んでお祝いのことばといたします。

「百年の森づくりの会」広報誌創刊を祝す
埼玉大学経済学部長 貝山道博

埼玉県は荒川とともに育ち、発展してきたが、今日都市化の進展が、母なる川、荒川に負荷を強いてきた。そのため、母は少々年をとり、疲れが目立つようになってきた。「百年の森づくり」は母への恩返しとして、荒川の源流域である和名倉に広葉樹を植林することによって、満々と水をたたえた昔の荒川を取り戻そうという大事業である。それは埼玉大学のワンダーフォーゲル部OB会及び現部の人達によって計画され、実行に移された。その後、埼玉大学開学50周年記念事業の一環として、埼玉大学はこの事業を協賛することになった。今日環境問題に対する関心は高いが、自然環境の再生・復元という究極の目標を掲げて、この問題に取り組む意気は壮大である。まさに百年を要する大計である。広報誌の刊行は、この事業を埼玉県民のみならず広く世界の人々に知らしめることによって、多くの人々のこの事業への参画、協力を促し、さらにはこれが契機となって荒川の学術研究が活発化されることを大いに期待したい。



百年の森に期待

山中敬久/大滝村議会議長

私は今「千年の森づくり」を提唱していますが、あまり「千年の森づくり」という言葉を使うと、気恥ずかしい感じがします。言葉は一人歩きしますから、人から人に伝わる時、風化していきます。そこが淋しい。「自分が大滝に住んで、生きていることの意味は、何だろうか」「自分の生き方と、居住する大滝の地と、どう関係するのか」ということをずっと考えてきた中で、出てきた言葉が「千年の森づくり」だった。時代の求める文明的価値観としての鎮守の森の精神性。巨木の与える圧倒的な時間性。首都圏へ流れ込む荒川の最上流の地という大滝の地勢学的価値。自身のアイデンティティ。これらの象徴的な表現としての千年の森。慶応の言語学の鈴木孝夫先生が述べています。「同じ場所に、同じ民族が同じ言葉を使って、二千年も居続け、古代的な要素を保持した近代的な国はない。その古代性を見直すべきだ」と。

百年の森づくりの会の広報誌が千年の森づくりの源流となってくださるよう心から期待しています。

増野武夫/埼玉経済同友会代表幹事

私は中学生の頃から、わが埼玉の自然あふれる山々に登ったり、奥深い緑の森を散策するのが好きだ。

このたび、荒川の源流域の和名倉山に、百年かけて森づくりをして、元の植生を取り戻そうとする会が、埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB中心に発足したと聞いた。

21世紀は環境の世紀だ。この壮大な夢の実現に向けて、活動をはじめた方々にエールを送り、私にも出来る応援をしたい。

坂本和彦/埼玉大学大学院教授

森林は地球生存の基盤であり、われわれに水と空気を提供している。緑のペストがヨーロッパを襲ったが、その修復には気の遠くなるような時間がかかっている。

「百年の森」活動は秩父の玄関とも言える寄居に生まれ、幼い頃荒川で泳いだ私には何とも言えない、良き時の再来を期待させてくれる。結果が出るまでの時間が長くかかるものほど、後々多くの恵沢を与えてくれるものだから。

加藤司郎/埼玉大学客員教授（登山家）

秩父湖の対岸にどっしりと腰をすえた大きな山塊は、若い頃から何時か登ってみたい憧れの山の一つだった。もう20年以上前になるが、埼玉大学秩父山寮の後ろ

のつり橋を渡って、二瀬尾根にとりつき、八百平に出て川又へ下ったのが和名倉山を訪れた最初だった。深い静かな山塊に魅了されて、その後も惣小屋から東仙波に抜けたり、将監峠から登ったりした。昨年からは埼玉大学地域共同研究センターにお世話になることになって、埼玉大学ワングルの関係者が中心になって、和名倉山頂付近のガレ場に木を植えようという計画があると聞いた。実は私も趣旨は少し異なるが、秩父湖から和名倉山をはきんで反対側にある麿屋に近かった雁峠山荘を仲間と再建したことがある。21世紀は人工的な世界がどんどん広がる反面、生き物の世界を豊かにすることがより重要になってくる。森に遊びその中で自然に学ぶ心を子孫に伝えることは、最も大切なことになると信ずる。

森下 健七郎/埼玉県高等学校体育連盟・登山専門部部長

「百年の森づくりの会」が埼玉大ワングル部関係者を中心に進められていることを、浦和北高山岳部顧問の高岡さんから聞き、また何度か報告も受けていました。

思えば、埼玉高等学校体育連盟登山専門部もこの山には、一方ならぬ愛着を持っています。中間部1400から1700mは、スズタケの藪に包まれた難ルートで講習会や登山大会で何度もなく挑んできました。

小生も、1971(昭和46)年の春、学徒(登山)大会に秩父農工山岳部の顧問として初めて参加したのが、この和名倉山コースへの登山でした。未だ23歳で(現在53歳)教員一年生、しかし、教員になる前に登山に熱中していた関係もあって、途中から終始トップで藪を漕ぎ抜いた記憶は鮮明に残っています。その頃の山岳部の生徒は、体力もあり強く、埼玉高体連(コース設定等)のパイオニアワークに力強い刺激を受けたものでした。確か仁田小屋尾根を辿ったと思います。その後機会あるごとに、この和名倉山は話題に上り、何度となく挑んできました。1997年度の関東大会では、和名倉山を他県に紹介すべくコースの設定を行いました。

こんなに愛着を持ってきた和名倉山を元の美しさに再生する作業に加われることは、非常に光栄で誇りに持てることだと思います。日頃は先人が苦勞して造った山道を利用するだけの我々ですが、その山に少しでも恩返し出来る機会を与えられたことは、とても大きな喜びでもあります。

この山をきちんとした形で再生し、将来にわたって魅力のある山にすべく、植林活動に着手したことに敬意を表したいと思います。また、何かしらのお手伝い出来ればと思っています。是非とも、沢山の個人・団体が「各々出来る範囲・形態での協力」をして欲しいものです。

幸い当登山専門部は人海戦術等、人員を確保できる条件を備えていますので、加盟の各校山岳部への呼びかけなど、出来る範囲で協力をしていきたいと思っています。



活動報告 1996.10 2000.12

埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会山行から
「百年の森づくりの会」へのあゆみ

埼玉大学ワンダーフォーゲル部 創部40周年記念山行/雲取山クリーン山行(テーマ「荒川の水を考える」)

期日 1996.10.26~27

参加者 41名

①三峰コース②晴沢コース③大ダワコース④大雲取谷コースの4コースから清掃活動しながら、雲取山を目指した。清掃活動として貴重な経験であったが、今後の活動として、テーマ「荒川の水を考える」をさらに発展させ、ブナなどの広葉樹の植林を行なっていきたいという意見が多く出された。OB会の数名が、埼玉県農林部の主催する「森林サポータークラブ」に参加していることもあり、環境保全活動をさらに進めていくことになった。

偵察山行/和名倉山

期日 1997.5(1泊2日)

参加者 3名

和名倉山は1964年(昭和39年)の山火事以来、樹木があまり育ってなく、登山道も不明瞭になっているということなので、調査してみることにする。

雲取林道入り口近くから入山。和名倉沢を渡り、二瀬尾根に取り付き八百坪でテントを張る。藪はあるが、踏み跡はあるし、所々赤布の目印がある。高校総合体育大会でも使われたコースなので、注意深く進めば危険なところはない。翌日、和名倉山山頂、東仙波山山頂を偵察。どちらも森林が茂っているところもあるが、ほとんど育っていないところもある。大きなやけどいがあるのか、かつては大きな木もあったと思われる。帰りは、二瀬尾根をまっすぐ下り、埼玉大学秩父学寮にもどる。

埼玉県農林部の仲介で大滝村と話し合い、和名倉山の村有林での活動を始めることになった。朝日新聞に偵察山行の時の写真とともに、植林計画が掲載される。

大滝村役場産業観光課の方に藪で閉ざされている仁田小屋尾根を案内していただく。

百年の森づくり 第1回ワーク

期日 1997.10.23~24

参加者 13名

雲取林道—松葉沢(1000)—作業小屋(1150)—(1250付近)作業道作り(藪の伐採)。

百年の森づくり 第2回ワーク

期日 1998.5.23~24

参加者 7名

雲取林道—松葉沢—作業小屋—(1350付近)作業道作り(藪の伐採)。

百年の森づくり 第3回ワーク

期日 1998.10.24~25

悪天候のため中止。

百年の森づくり 第4回ワーク

期日 1999.5.22~23

参加者 28名

雲取林道—松葉沢—作業小屋—イヌブナ平(1400)(わが会が勝手に命名)—1500 作業道作り(藪の伐採)。藪を抜け1400m付近は開けている。獣のヌタ場がある。

偵察山行/1999.9

イヌブナ平付近でツキノワグマと出会う。仁田小屋尾根の頭(1555)を確認。鹿がうろうろしている。

「百年の森づくり」埼玉大学創学50周年記念事業に/1999.9

埼玉大学開学50周年記念事業として指定を受け、その活動拠点として埼玉大学キャンパス内に小屋「百年の森テラス」の建設が認められた。

百年の森づくり 第5回ワーク

期日 1999.10.23~24

参加者 34名

作業道作り(藪の伐採)。1600mまで伐採。

偵察山行/1999.12

藪が続くが、旧道が獣道として残っている。ダケカンバの疎林(1776m)は、気持ちのよい広場となっており、100mほど下ったところに水場を発見。

埼玉大学に植林基地「百年の森テラス」完成/2000.2.5

朝日新聞 毎日新聞 埼玉新聞に掲載された。NHKにより報道された。

百年の森づくり 第6回ワーク

期日 2000.5.27~28

参加者 22名

作業道作り(藪の伐採)1700m付近まで切り開く。その後1776mまで藪こぎして到達。テントを張る。デポ品(テント4人用、6人用、青ビニシート、銀シート、水ポリ、大なべ1つ)

「百年の森づくりの会」発足/2000.6.28

埼玉新聞に掲載。

偵察山行/2000.9.16

雲取林道、仁田小屋入り口付近で土砂崩れ発見。大滝村役場に連絡。(10月には撤去されていた)ゲートから1555mへの登山道跡発見。使うには整備が必要。

偵察山行/2000.10.

仁田小屋尾根入り口からのルートは紛らわしい作業道が交差しているので、要注意(ビニールテープを巻いておいた)作業小屋(1150)付近でカモシカの親子と出会う。1780m付近に大規模な機材跡発見。1863m付近の荒地を確認し、山頂到着。

百年の森づくり 第7回ワーク

期日 2000.10.27~28

参加者 21名

最後の藪を伐採。山頂付近の偵察。植林候補地の偵察。

百年の森づくりの会「植樹祭」/2000.11.3

大滝村よりトチノキ(大滝村の木)および三波石の寄贈を受け、百年の森テラス横に植樹・設置。

大滝村より植林候補地の提示/2000.11

①1555m付近のスズケ群生地。

②1863m—山頂付近の荒地。

偵察山行/2001.2.12

雲取林道の崩落を確認。



「百年の森づくり」第7回ワーク紀行

今回は大滝村樹本広場にある「ふるさと館」を利用してもらった。前日に準備を整えてこの「ふるさと館」まで来ていたので、翌日はスムーズに出発できた。樹本広場は、和名倉山の北側の秩父湖をはさんで横たわる尾根(信州街道)にある。「ふるさと館」は資料館だが、ワークの準備のための宿舎としては最高である。今後のワークでも使わせてもらいたいと思っている。

偵察の結果、ゲートの先は土砂崩れの危険性が高いので、車はゲート手前の駐車場に置くことにした。また、入山口については、今後いろいろ考えられるが、今のところ看板のある仁田小屋尾根入り口をメインに利用したほうが良いと考えている。このルートなら仁田小屋跡で水が確保できる。

この活動を始めて、もう何度も和名倉山に登っているが、いくら道が開けて、最短コースができたといえ、険しい道のりである。百年の森BC(1750m)に着いたのは14:00を過ぎていた。できるだけ多くのメンバーに山頂まで行ってほしいので、本日のワーク作業は中止して、食事を準備する班と、山頂までを偵察する班に分かれた。山頂に着いたところから、雨が降り始め、

日も暮れだしたので早々に引き返すが、整備されていない道は結構手間取る。

山頂までのルート切り開きは目前である事を皆、実感できるようになった。つぎのステップは、「植林」である。1300m付近以下は針葉樹が植林されてある。1400~1700m付近はスズタケに覆われている。1700~2000mは唐松が植林されてある。1863m付近、山頂付近に荒地があるが、ブナの木が自生する高度でないとされている。いろいろな問題を越えなくてはならないと思うが、わくわくする気持ちも実感している。

さて、翌朝も小雨が降っている。昨日山頂まで行かなかったメンバーを中心に山頂まで偵察。残りのメンバーで最後の藪の切り開きを行った。

今回のワークでは、とりあえず山頂までの藪は取り払えた。とりあえずというのは、道の整備、場合によっては迂回ルートを作ったほうが良いところもあるからである。また、山頂まで行き、ルート上の植生がおおまかに分かった。このことを専門家に検証してもらい、大滝村とも相談し、植林地を決定していかなければならない。ともあれ、20世紀の最後のワークとしては実りあるものだったと思う。(高岡 記)



和名倉(白石)山仁田小屋尾根登山道で採集した植物と植生の概要について

埼玉工業大学深谷高等学校 教諭 市川嘉一

1. はじめに

大滝村白石山の村有林は1952年(昭和27年)から、仁田小屋尾根の伐採が始まり、二瀬ダムが完成する1961年(昭和36年)頃大伐採された。その後1964年(昭和39年)白石山山頂付近の山火事で約400ヘクタールが焼失し、さらに1969年(昭和44年)白石山南側の東仙波あたりが約300ヘクタール焼失した。村人は1965年から40万本のカラマツ苗(在来種)を焼失地に植えた。その後仁田小屋尾根登山道は焼道となった。埼玉大学開学50周年と埼玉大学ワンダーフォーゲル部(SWV)創部40周年とを記念して、SWVのOB会を中心に、この白石山に植林を行おうという活動が1997年(平成9年)から始まった。まず白石山山頂を目指して作業道作りを進めた。

2000年(平成12年)6月にはさらに大きな活動の内容と広がり求めて「百年の森づくりの会」が結成され、10月末の作業で頂上までの作業道がほぼ完成した。

筆者は、1999年秋の作業道作りから参加し、今後の植林計画の資料とするために4回の植物採集を行ったので、これまでに採集した植物について報告する。

2. 採集日・採集地など

採集は1999年11月21日-①、2000年5月27日-②、7月20日-③、10月28日-④の4回実施した。

採取した植物は筆者と理科部部員生徒が押し葉標本に作成した。

白石山仁田小屋尾根登山道は、大洞川に沿う雲取林道に登山口が2ヶ所ある。1つは大洞橋近くの870m地点(A)、もう1つは松葉沢登山口1000m地点(B)。両登山口からのルートは、1150mにある作業小屋で出会い、1555mの仁田小屋の頭を越え、仁田小屋尾根を登りつめて2036mの白石山に至る。

①③は1000m地点から、②④は870m地点から採集したので、1150mまでは標高が同じでも採集場所が異なる。

3. 標高別採集植物

2000m	シラビソ、コメツガ
1950m	シラビソ
1900m	シラカンバ、ダケカンバ、マルバダケブキ?
1800m	ヒメノガリヤス、ヤマネコヤナギ
1750m	オオイタヤメイゲツ、ミズナラ、スズタケ、シロヨメナ
1700m	オオシラビソ、ヤマネコヤナギ、ミネカエデ、コミネカエデ

1650m	サビバナナカマド、ノリウツギ
1600m	イヌブナ、サラサドウダン
1550m	ミヤママタタビ、コバノトネリコ、アラゲアオダモ、リョウブ、ヒノキ、ベニドウダン、ミツバツツジ、クマシデ、ハウチワカエデ、サクラsp.
1500m	コメツガ、ハウチワカエデ、ミネカエデ、ネコシデ、ヤマボウシ、イヌブナ、シオジ、アサダ、カラマツ(在来種)、ヤマアジサイ
1450m	ハクウンボク、イヌブナ、ブナ、ギンリョウソウ、ミズナラ、ダケカンバ
1400m	ミツバアケビ、ムラサキシキブ、オニノヤガラ
1300m	ムラサキシキブ、アラゲアオダモ、トウゴクミツバツツジ、ミツバツツジ、アセビ、リョウブ、ハリギリ、ヤマボウシ、アワブキ、チドリノキ、ハウチワカエデ、ヒナウチワカエデ、オオモミジ、ウラゲエンコウカエデ、ウリハダカエデ、ミネカエデ、コミネカエデ、カマツカ、ミヤママタタビ、ケヤキ、サワグルミ、コメツガ、スズタケ
1200m	アオハダ、ホウノキ、ハクウンボク、スズタケ
1150m	クサギ、スギ、ヒノキ、ノブドウ、ヌルデ
1100m	オニタビラコ、タチツボスミレ、モトゲイタヤ、オオモミジ、イロハモミジ、カスミザクラ、クマノミズキ、メギ、フタリシズカ、ムラサキケマン、イタヤカエデ、ミヤマタニソバ、ウスゲタマブキ、クサギ、ムラサキシキブ
1050m	ハシリドコロ、テイカカズラ、エイザンスミレ、クマシデ、ヤマブキ、ガクウツギ、ヤマジノホトトギス、チドリノキ、アワブキ
1000m	オノエヤナギ、コハウチワカエデ、ナガバモミジイチゴ、ヒメウツギ、サンショウ、マムシグサ、アシボソ、ボタンヅル、フジキ、フサザクラ、ノミノツツリ、タニタデ、サワグルミ、ケヤキ、カツラ、マルバノマンネングサ、タマアジサイ、ウツギ、コアカソ、アカソ、ミツデカエデ、オオバコ、イケマ、オオバアサガラ
950m	ヒナスミレ、ヨグソミネバリ、ガクウツギ

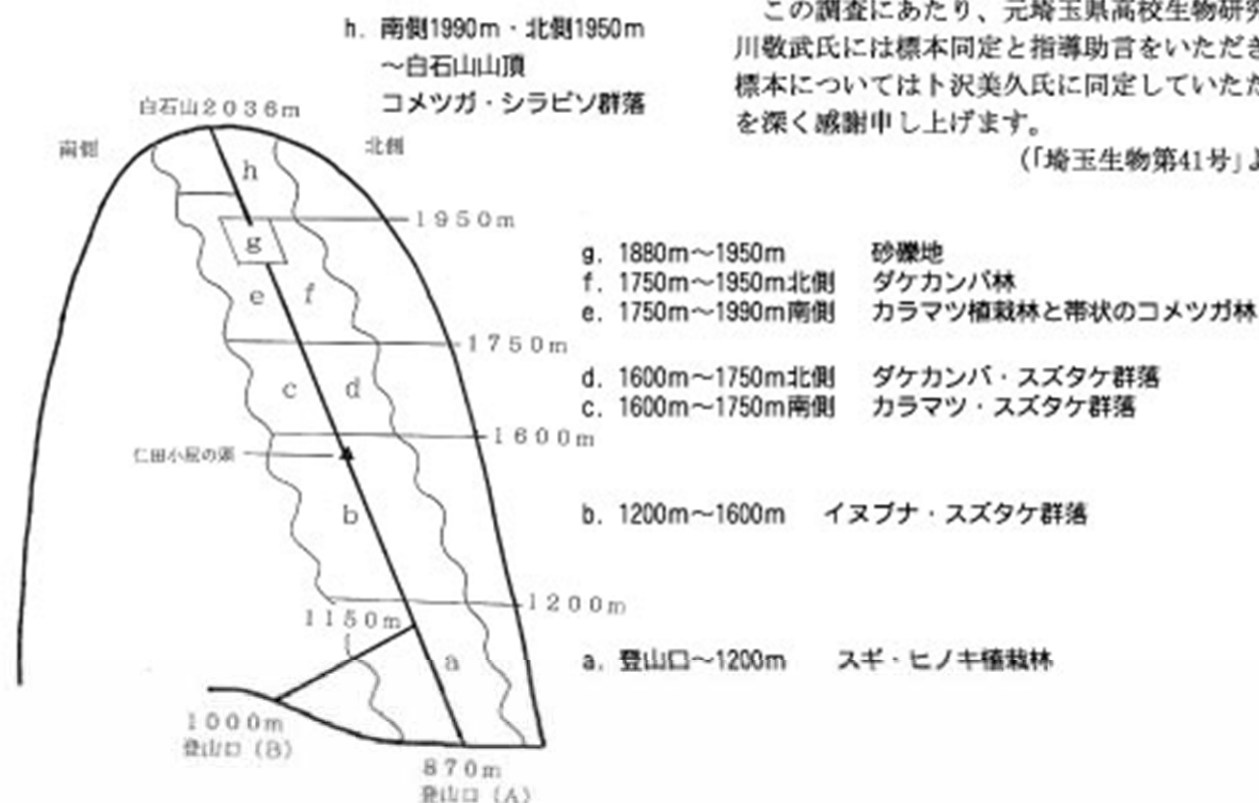
4. 採集植物の分類

双子葉・合弁11科22種、双子葉・離弁31科66種、単子葉4科5種、裸子植物3科6種、合計49科99種。

なお、2000年7月20日に採集した3種の植物、オオバアサガラ、マルバノマンネングサ、オニノヤガラは、'98年度版埼玉県植物誌に未記載であり、和名倉地区として新分布種となる。これらの標本は、埼玉県自然史博物館に納める予定である。

5. 標高別植生の概要

仁田小屋尾根登山道は白石山の東南東方向の登山口から、西北西の方向に山頂を目指して上がっていく。尾根上には、かつての伐採の切り株が至る所に見られる。



6. 「百年の森づくり」計画への提言

これまで4回の植物採集を行ったが、1750mまではスズタケが密生しており、尾根上の見通しは数mから10数mで、十分な採集調査ができていない。また、1550m以上は1回の採集で、これも不十分と考えている。登山道が山頂まで通ったので、今後さらに詳しい植生の把握ができるものと期待している。

これまでの調査で、冷温帯であるにもかかわらずブナが殆ど無い異常に気づいた。今後ここにブナの幼樹を植林するのが、自然な森への回復の一步になるのではないかと考えている。また、gの砂礫地にどのように植林するか、今後の課題になるものと思われる。

なお、仁田小屋尾根登山道はあくまでも作業のための作業道である。急な登りが多く見通しも悪い上、熊の糞もしばしば観察されるので、一般の方の登山道としては危険性もあって適していない。

この調査にあたり、元埼玉県高校生物研究会長の愛川敬武氏には標本同定と指導助言をいただき、一部の標本についてはト沢美久氏に同定していただいたことを深く感謝申し上げます。

(「埼玉生物第41号」より抜粋)



1880m～1950m シリナシ尾根下砂礫地



1750m～1800m ダケカンバ・シラカンバ林



1200m～1600m イヌブナ・スズタケ群落



ワークに参加して

百年の森ワークに参加して

埼玉大学工学部2年 林 正高

去年の5月と10月に百年の森のワーク活動があり、僕はその両方に参加しました。1997年から行ってきた植林場所へのルート作りもだいぶ進んで、5月には1700m付近の水場に近い少し開けた所をベースにし、10月にはさらに先の方へテントを張り、昨年度には行けなかった和名倉山の頂上にも行くことができました。

頂上付近は倒木が多く、頂上自体も周りが木に覆われていて開けた場所ではなかったが、頂上手前は木のほとんど生えていないガレ場であった。この日は天気が下り坂で、頂上から引き返してくる頃になって降り始め、だんだんと雨足は強くなってきた。時間も少し遅めだったこともあり、雨で視界も悪く、周りはミッチェルが見えにくい暗さになっていた。頂上に向かったメンバーは多人数であったが、ヘッドランプを持っていない人もいたため、皆で声をかけあってはぐれないように下っていった。途中の笹藪ではさらに道がわかりにくく、足場も悪いため列が離れてしまいそうになることがあったが、最後尾がOKを出すまで動くなとOBの方々が手際よく適切な判断をしてくれたので、無事テントに戻ることができた。貴重な体験であった。

ミレニアム第一回目の植林活動

埼玉大学経済学部1年 梶原亮平

2000年5月に行われたワークは、私にとって初めての体験で、さらには新人錬成合宿に続いて2度目の山登りということで非常に不安でしたが、OBの方々や高岡さんのご指導により鎌でヤブを刈って道を切り開く作業などをスムーズにこなすことができました。また荷物をテント場に上げたり、水場を発見するなど数多くの経験や有意義な時間を過ごすことができました。これからも、将来を見据え、未来を楽しみにして、この植林活動に参加していきたいと思えます。



イヌブナ平での休息

ミレニアム第一回目の植林活動

埼玉大学経済学部1年 霜田晃佑

私たち埼玉大学ワンダーフォーゲル部は、OBの方々と共に、埼玉県大滝村・和名倉山にて植林活動を行っている。最近の活動としては、2000年10月27・28日に和名倉山を訪れ、この時ようやく山の頂上に達することができた。峰に覆われつつも笹藪を刈り、テントまでの道も帰る時には数倍歩きやすくなった。この植林活動のテーマは火災で失われた秩父の森を100年かけて取り戻すというものだ。現に自分が山頂に行った時も、確かに木々が無い場所があったのを覚えている。「百年の森づくり」というこの上なく壮大なプロジェクトではあるが、山々への恩返しという思いを込め、この21世紀中に森をつくることを目標に自分も進んでいきたいと思えます。



ヤブを押し分けてルート開切

植林山行

埼玉大学経済学部経営学科3年 野原麗良

私が最初に植林山行に参加したのは、99年の春でした。その頃はまだ、道も途中までしか出来ておらず、笹藪で何処が道かわからないぐらいでした。私達が主に行う仕事は、笹を刈ったり、土を踏み固めたりしてピークまでのルートを作る事。行く手を阻む笹藪を、大鎌や草刈機などでなぎ払い、道を作っていました。初めの頃は、ここに自分達で後々まで残るルートを作り、植林をしていくという事が本当に出来るのだろうかと思っていました。2000年秋にはピークまでの道がついに開けました。

植林山行はまだ始まったばかりですが、これからは現旧ワンゲル部員の活動としてだけでなく、様々な方に参加してもらい、百年の森づくりをしていきたいと思えます。



笑顔、作業ルート完成まじか！

活動拠点

百年の森テラス



埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会の活動として始まった百年の森づくりの活動は、県の緑化推進委員会ならびに大滝村の支援ばかりでなく、埼玉大学の開学五十周年の記念事業となり埼玉大学の協力が得られるようになりました。そしてそれを機に活動拠点を埼玉大学構内に作ることになりました。

テラス作りのために、まずは資金として多くの賛同者からカンパを集め、さらに埼玉大学・埼玉大商店街からも支援をいただきました。資材は秩父の(株)ウッディコイケから地元の材木を格安で提供していただきました。設計は、埼玉大ワンダーフォーゲルOBでもある大類工務店が担当しました。ですから、思いがこもったすてきな活動拠点「百年の森テラス」が完成したわけです。「百年の森テラスのコンセプトは秩父の山の学校です。本校は和名倉山で、百年の森テラスは分校です。皆が集まり、自然を慈しみ、木を植え、環境の未来を描き、自然の大切さを教えてくれる学校です。秩父の山の学校ですから、建設に使用する木材は秩父の材料を使いました。」(埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会誌「山恋」より)

テラスの落成、そしてそのテラスを埼玉大学へ贈呈する式は、2000年2月5日に行なわれました。このことは朝日新聞、毎日新聞、NHK、テレビ埼玉で報道されました。私たちの活動に対するマスコミの関心の大きさを感じるとともに、この報道は「百年の森づくり」の活動に興味を抱く多くの人たちの目にとまったことと思います。

さて、その後テラスで、大滝村より村の木であるトチノキと大滝の三波石を譲り受け、テラス横に植樹し設置しました。

テラス内は、「百年の森づくり」第6回・第7回のワーク活動の報告、および現時点までの植生調査報告が掲げられてあります。また、和名倉山周辺の山に詳しく本会の理事でもある加藤司郎氏から山の本をたくさん寄贈していただき展示してあります。

現在、テラスは毎週火曜日17:00~19:00にオープンしています。お立ち寄りください。

アルバム1999.5~2000.12



1999.5 埼玉大教育学部前で



2000.5 1750mベースキャンプ(前日の風雨がきれいに晴れて)



2000.5 ベースキャンプでの給食風景

会員を募集しています。

私たちは、1964年埼玉県火災史上最大の山火事にみまわれた和名倉山の植生回復を通して、荒川源流の環境保全に努めるとともに、豊かな森と地域社会の再生を目指しています。「百年の森づくりの会」へ多くの皆様のご理解とご参加をお願い申し上げます。

主な活動

- 植林による植生の回復活動
- 調査研究・教育活動
- 地域の活性化
- 定期情報誌の発行・広報活動
- シンポジウムの開催

年会費

個人会員	2,000円
法人(団体)会員	10,000円
郵便振替	00140-0-555239

百年の森づくりの会

■現会員 (会員番号 氏名 住所)

1 内藤 勝久 浦和市/2 石川 恒男 水戸市/3 堂井 正和 豊島区/4 東 克明 大宮市/5 大前 健三 嵐山町/6 小林 公彦 久喜市/7 高橋 修 庄和町/8 小林 通子 久喜市/9 鍋本 健二 調布市/10 高岡 裕美 大宮市/11 高岡 正彦 大宮市/12 市川 薫一 深谷市/13 西塚 功一 上尾市/14 藤岡 了 浦和市/15 原田 直示 大宮市/16 三貫 文京区/17 沢野 豊志子 岩槻市/18 新井 悟 秩父市/19 太田 見 慎也 秩父市/20 山崎 繁行 白岡町/21 三原 賢 与野市/22 吉田 俊夫 浦和市/23 増野 武夫 本庄市/24 横田 祐輔 大宮市/25 野上 武利 東村山/27 根本 健夫 蓮田市/28 中村 直行 練馬区/29 小池 明宏 大宮市/30 小嶋 一郎 浦和市/31 角川 浩二 与野市/32 内藤 晴久 浦和市/33 中村 文男 岩槻市/34 中嶋 重勝 与野市/35 戸田 和子 板橋区/36 大崎 紀夫 戸田市/37 沢野 新 横濱市/38 伊藤 更正 川越市/39 佐藤 健 横濱市/40 保坂 リエ 世田谷区/41 今井 武蔵 秩父市/42 榎方 謙二郎 大田区/43 佐藤 泰秀 浦和市/44 神田 彰久 浦和市/45 石井 重佳理 世田谷区/46 重田 勉 大宮市/47 児玉 洋介 川口市/48 森安 和夫 上尾市/49 矢和田 洋 上尾市/50 内藤環境管理 浦和/51 新藤 享弘 大宮市/52 岸 廣一 大宮市/53 久保 正義 大田区/54 田口 勝久 浦和市/55 日下部 雅昭 川崎市/56 石坂 幸一 寄居町/57 山田 学 練馬区/58 亀田 不二雄 熊谷市/59 久保田 重治 浦和市/59 久保田 重治 浦和市/60 本間 俊司 浦和市/61 伊藤 正昭 中央区/62 平田 哲 浦和市/63 松村 勝三 川本町/64 松村 幸子 川本町/65 塩浦 綾子 浦和市/66 (財)おたけ埼玉支部 浦和市/67 河合 都志子 船橋市/68 宇都宮 誠二 柏市/69 津田 俊博 浦和市/70 野平 博之 浦和市/71 M&K浦和放送局 浦和市/72 渋谷 優 浦和市/73 員山 道博 浦和市/74 宮崎 一幸 浦和市/75 高橋 昌三 柏市/76 大澤 洋平 熊谷市/77 森田 映 大宮市/78 中島 道広 浦和市/79 東野 礼子 世田谷区/80 関口 森代 府中市/81 堀越 進 練馬区/82 住友海上火災保険 浦和支社 浦和市/83 櫻井 春隆 杉並区/84 七條 イツ子 久喜市/85 山岸 英子 久喜市/86 飯塚 明 秩父市/87 菅野 五郎 熊谷市/88 鈴木 甫 浦和市/89 関根 憲一 秩父市/90 荒船 重敏 浦和市/91 小池 正 熊谷市/92 島崎 恒雄 秩父市/93 津田 正洋 熊谷市/94 熊木 亘 熊谷市/95 細田 正義 深谷市/96 八木 章夫 秩父市/97 島崎 学 秩父市/98 栗原 一夫 秩父市/99 新井 章一 秩父市/100 浅見 良雄 秩父市/101 高田 真平 熊谷市/102 山崎 茂 妻沼町/103 嵐沢 久三 秩父市

/104 四方田 俊男 皆野町/105 秩父鉄道 熊谷市/106 益木 利夫 吹上町/107 酒井 豊志枝 深谷市/108 藤山 攻 所沢市/109 志村 基巳 大宮市/110 藤森 博 町田市/111 成澤 秀雄 熊谷市/112 高津 義明 杉並区/113 寺本 彰 入間市/114 殺野 真子 熊谷市/115 高寺 一郎 墨田区/116 大谷 重典 矢板市/117 室杉 由美子 鴻巣市/118 吉野 秀子 浦和市/119 池田 良二 板橋区/120 青藤 邦子 与野市/121 金子 輝男 与野市/122 石井 光造 浦和市/123 西野 治朗 浦和市/124 渡辺 武司 台東区/125 栗田 千俊 富士見市/126 生井 知三 所沢市/127 栗田 美智代 行田市/128 片山 充彦 朝霞市/129 村松 豊茂 浦和市/130 羽村 彰 与野市/131 ニノ上 かづえ 野田市/132 ニノ上 通 野田市/133 島中 壮志 仙台市/134 熊井 克子 嵐山町/135 笠原 浩 小豊野町/136 新井 卓見 吉田町/137 櫻井 室祐 大科横町/138 聖文社印刷 江東区/139 黒田 泰弘 浦和市/140 秋吉 彰生 浦和市/141 中島 潤一 浦和市/142 島井 雅一郎 庄和町/143 難波 豊 大宮市/144 田辺 雅彦 富士宮市/145 中嶋 肇子 神戸市/146 岡野 勉 都農川村/147 飯塚 史郎 浦和市/148 今津 弘志 杉並区/149 松尾 明典 杉並区/150 武正 公一 浦和市/151 高橋 均 大宮市/152 寺久保 勲 横濱市/153 田中 重生 船橋市/154 兵藤 創 板橋区/155 金子 久子 所沢市/156 真壁 健一郎 東村山市/157 佐々木 孝之 大宮市/158 小林 紀彦 浦和市/159 今岡 陽一 松江市/160 藤原 操 浦和市/161 大澤 武雄 浦和市/162 小林 利成 浦和市/163 馬場 一浩 浦和市/164 森島 正安 羽手町/165 山下 公也 秩父市/166 長本 和子 大宮市/167 野澤 恒男 浦和市/168 島崎 千枝子 秩父市/169 島崎 武重郎 秩父市/170 杉山 邦弘 川崎市/171 中村 次郎 蕨市/172 小宮 静子 浦和市/173 田村 晴彦 逗子市/174 川口 泰昌化学 川口市/175 新井 三郎 秩父市/176 徳嶋 徳治 大宮市/177 森野 嘉明 美里町/178 茂木 君郎 市原市/179 伊藤 亦八 練馬区/180 鎌田 陽子 浦和市/181 鈴木 康之 世田谷区/182 戸川 亮一 足立区/183 田島 有美子 浦和市/184 相模 八郎 福島市/185 坂本 和彦 浦和市/186 加藤 司郎 熊谷市/187 野澤 和雄 長瀬町/189 吉永 道則 越谷市/平野 清子 久喜市

今後の主な行事

第8回和名倉ワークのための偵察

5月3日(金)～5日(日)
林道が一部崩落しているため、状況把握のため偵察。

第1回通常総会開催

5月20日(日)
午後1時から開場
午後1時15分～2時 第1回通常総会
議事：平成12年度事業報告・決算報告
平成13年度事業計画・予算(案)
和名倉山の現況について
午後2時～5時 特別講演会 開催
午後5時～ 懇親会開催(3000円実費負担)

*総会・講演会の参加申込は、別紙特別講演会チラシ、裏面の要領を確認の上、お申込ください。

第8回和名倉ワーク開催

5月26日(土)～27日(日)
参加ご希望の方は、下記事務局まで、電話、FAX、電子メールにて、ご連絡下さい。
参加者には、後日スケジュール等、ご案内します。

記

(事務局) 〒336-0015 浦和市太田窪2034-1
百年の森づくりの会 会長 内藤 勝久
TEL 048-885-6697
FAX 048-882-0245
E-mail naitoh@saitama-j.or.jp

和名倉むかしいま

神山「かせぎやま」

(大滝村立歴史民俗資料館パンフレットより)

荒川源流郷大滝村は古くから森林資源の宝庫とされ「奥秩父の原生林」として親しまれてきました。近世期の大滝村は幕府直轄の天領に定められ、その豊かな森林は御用木などの備蓄林として御林山に指定され、「東国第一の御宝山」あるいは「御林木蔵」と称されました。その範囲は東西20余里、南北4里余りにおよぶ、無反別の広大な地域であったと記されています。御林のうち1里半ほどを「百姓稼山」とし、村の人びとの出入りが許され、林産物の製造・採取または焼畑耕作と、その利用は村人たちの生計を支える上でおおいに益するところとなりました。しかし、年々8貫文の山役銭が賦課されました。

1916年(大正5年)東京大学秩父演習林設置(約6000ha)

日本林業の最も重要な位置をしめる冷温帯域での演習林として発足。現在の森林構成は、人工林13%、広葉樹二次林53%、原生林33%。

1947年(昭和22年)国有林3200町歩の大滝村への下戻裁判勝訴、大滝村村有林の成立。

「大滝村国有林下戻請求行政事件明治三十八年から実に四十三年の長きに亘り 昭和二十二年四月二十四日関係者の献身的な努力によって遂に勝訴にいたらしめ一大成功をおさめ得たことは大滝村政史上空前の事にして其の功績は永く後世に傳うべきものである。」(埼玉大秩父山寮側 顕彰碑文より)

1961年(昭和36年)二瀬ダム完成。

1964年(昭和39年)11月23日 埼玉県の火災史上最大の山火事発生、400ha焼失。



嵐の日に炎もようや下火になり、風助とした静けさだけが残った。

「大滝村民が心身ともにすりへらした『恐怖の一夜』があけた二十四日。だがそれは再び火魔への挑戦ゴングでもあった。この日の同村は一日中あわただしく、あるものは電話に、携帯無線電話に、消火作業にと必死に取り組んでいた。単なる火というより大きな自然とのたたかいだ。」

(埼玉新聞 昭和39年11月25日 第7297号より)

1969年(昭和44年)東仙波、山火事発生、300ha焼失。

1999年1月「百年の森づくり」朝日新聞に紹介。
2000年10月仁田小屋尾根ルート完成、和名倉山頂に立つ。



2000年12月 例年になく大雪となったこの冬、入山の主要なルート雪取林道の一部が崩落。



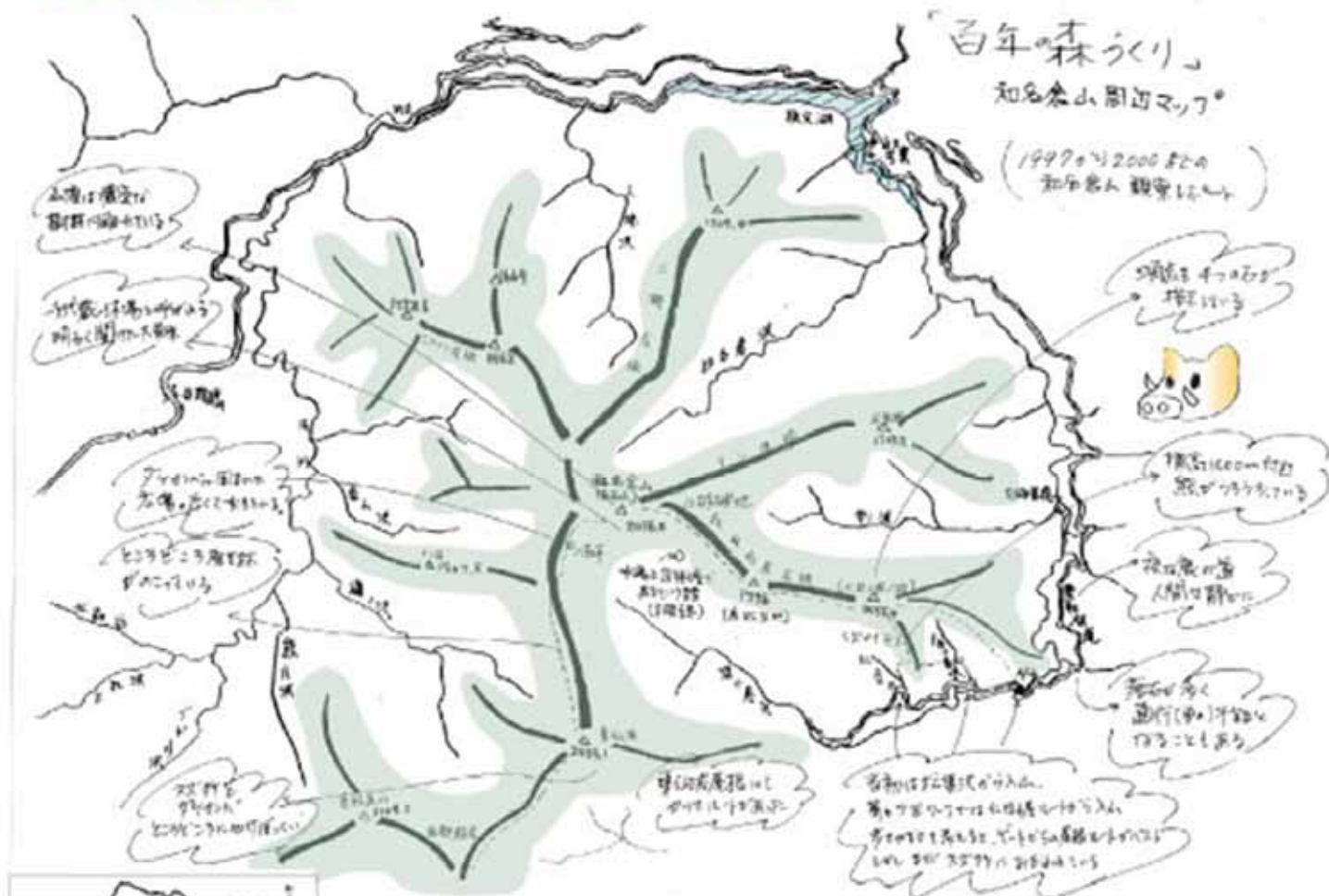
雪取林道より異様な東山頂を望む

編集後記

4年余りになる「百年の森づくり」の活動をようやく皆様にお伝えできるようになりました。数々のご支援に心よりお礼申し上げます。山に残された樹齢300年に近い木との出会いは、百年という長いスパンで私たち自身の生き方をも見直すよい機会を与えてくれました。私たちの活動はまだ始まったばかりですが、山の老樹のように数百年の風雪に耐えられるような会にしていきたいと願っております。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。(た)

和名倉山

地形図には「白石山」と名が記されているが、これは山梨側の呼称。秩父では和名倉「わなくら」と言い慣わされている。「奥秩父主脈から北に外れた和名倉山は、県境に接していない純粋な埼玉県の山の最高峰。」（「分県ガイド埼玉県の山」）



和名倉の樹々(1)

植物生態の上からは太平洋側の落葉広葉樹林帯に属する和名倉山は、驚くほど多くの植物に富まれています。登山口から頂上までの標高差1200mの間には、さまざまな樹木が見られます。

●ウリハダカエデ

ブナ林の中によく見られるカエデで、樹皮の色と葉の形から大変覚えやすい樹です。

●ミズナラ

右の写真は、標高1600mの尾根上に、傷ついたために幸いにも残された古木。幹の周囲は2275cmもあり、かつてこんなにも立派な樹が沢山あったことを物語るようです。

ウリハダカエデ



ミズナラ



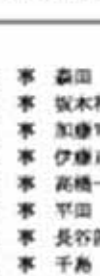
ブナ



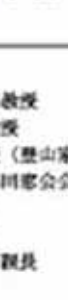
ウリハダカエデ



フサザクラ



シオジ



役員

名誉会長	兵藤 剣	埼玉大学学長	理事	森田 武	埼玉大学教育学部教授
会長	内藤勝久	内藤保険サービス 社長	理事	坂本和彦	埼玉大学大学院教授
副会長	本間俊司	埼玉大学工学部助教授	理事	加藤明郎	埼玉大学客員教授(聖山家)
副会長	大前健三	埼玉大学ランダーフォーゲル部 副会長	理事	伊藤正昭	埼玉大学経済学部副学部長
副会長	高岡正彦	県立浦和北高 教諭	理事	高橋 一郎	熊崎五新聞 会長
常務理事	小林公彦	埼玉経済同友会事務副次長	理事	平田 晋	NK通信放送局長
常務理事	坂本邦宏	埼玉大学工学部助手	理事	長谷部真一	埼玉県農林部林務課長
常務理事	田島文己	聖文社印刷所	理事	千島 茂	大滝村村長
常務理事	市川嘉一	埼玉工業大学栄谷高校 教諭	理事	島崎義行	大通り商店会 会長
常務理事	秋吉彰生	東京工業大学大学院	理事	山田陽一	住友海上火災保険埼玉支店長
理事	中村次郎	埼玉大学名誉教授	理事	真 克明	大豊建設 副
理事	櫻井春隆	埼玉大学経済学部教授	会計監事	阿合聖希子	公認会計士事務所
理事	具山道博	埼玉大学経済学部員	会計監事	高橋 修	国際会計事務所

和名倉百年の森
会報発行号
2001年3月31日



百年の森づくりの会 会長 内藤勝久

〒336-0015 埼玉県浦和市太田窪2034-1 TEL 048-885-6697 FAX 048-882-0245
e-mail: naitoh@saitama-j.or.jp